



陸上部と小連体選手が合同練習を行いました。



中学生に追い付け追い越そうと頑張る小学生女子



夏休み、7月後半の約1週間、中学校陸上部と小連体選手が合同練習を行い、互いに鍛え合いました。中学生は新人戦、小学生は小連体に向けてよい刺激となりました。本番ではこの練習の成果を出し切ってほしいと思います。ガンバレ石川健児たち！！



練習は「挨拶」で終わります。

陸上部と野球部が地域に貢献しました。

弘前ねぶたまつりが開幕する直前、7月26日（水）、陸上部と野球部がゴミ拾いボランティア行いました。インターチェンジ出口・弘前市街地へ向かう国道付近の歩道（中学校野球場防球ネットと国道の間）には、ドライバーが「ポイ捨て」するペットボトル、空き缶、カップ麺の容器などがいつも散乱しています。弘前市の南の玄関口の環境美化を目的に、そして、県内外からの多くの観光客が気持ちよく弘前市に訪れてくれるために、猛暑の中、頑張ってくれました。



8つのゴミ袋に「収穫」がありました。



30度を超える猛暑の中での地域貢献

長距離トラックのドライバーがインターチェンジ出口の「安全地帯」に停車し、休憩場所になっているため、ゴミが散乱しているようです。対策を考えたいものです。

児童生徒が大沢ねぷたに参加しました。

8月5日（土）、石川小児童75名・教職員7名、石川中学生20名・教職員7名が、「石川小学校創立140周年、石川中学校創立70周年」を記念するねぷた運行に参加しました。当日、駅前コースには約38万人（主催者発表）の人手があり、石川小・中学校の存在をPRすることができました。また、参加した児童生徒・保護者も地域の一員であるという意識をもつよい機会となりました。



太鼓の台車に幟を付けてもらいました。

前ねぷたの肩に書いてもらいました。



幟を計20本作製し、小中一貫教育とCSをPR



前ねぷたのパフォーマンスを頑張りました。本体の肩にも書いてもらいました。

弘前ねぷたまつりは町会単位でねぷたを出陣させています。そこに地域コミュニティが形成されます。そして、子ども達はそこで、地域の良い意味での「カッコイイ大人」に出会うことが可能です。そんな子どもは成長し、故郷を一時的に離れても、再び戻ってくるのではないのでしょうか？子ども時代に地域で貴重な体験をさせ、自己有用感を味わわせることや、地域の多様な他者との出会いによる「豊かな心」の醸成がコミュニティ・スクールの目的ではないかと思えた夜でした。